

自分の思いを的確に表現できる児童を育てる学習指導法の工夫

— 「書くこと」の学習を通して —

宮川 晃¹

各種調査の結果から、国語科においては「書くこと」の指導の充実が求められていることがわかった。本研究では、作文指導を工夫することにより児童は自分の思いを的確に表現できるようになるだろうという仮説のもと、ITを活用した作文支援教材「おもしろ作文」を作成した。この教材を用いた検証授業を行い、「書くこと」に親しませながら的確に表現する力を育むカリキュラム開発をめざした。

はじめに

社会状況の変化が激しい時代を迎えた学校教育のあり方として、「生きる力」の育成が提唱された。国語科においては、人と人との関係で互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり、理解したりする力としての「伝え合う力」を高めることが求められている。この「伝え合う力」を高めるには「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の力をバランスよく育てる必要がある。

しかし、各種調査結果・実態報告によると、「書くこと」の領域に児童の苦手意識が強く表れていることから、その指導法の改善が求められている。

そこで本研究では、共同研究テーマ「自己学習力を育むカリキュラム開発」をめざし、児童自らが「書くこと」に親しみを持ち、自分の思いを的確に表現できる学習指導法について追究したいと考えた。

研究の内容

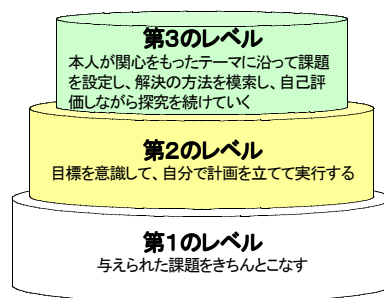
1 「自己学習力」と「書くこと」

市川は、自己学習力とは「学習者が自ら目標を設定し、計画を立てて遂行し、結果を自己評価していくという主体的な学習」(市川 1995)とし、自己学習力を高める方策として次の3点を挙げている。

- (1) オープンスクールのような自発的な学習を支援する環境作り
- (2) 意欲を引き出しやすい探究的な課題や創作的な課題の設定
- (3) 「学習と思考のスキル」を習得できるような教授方法の導入

さらに、自己学習力のレベルは図1のように3段階あると述べている。(市川 1998)

従来の国語科の「書くこと」では、与えられた課題に基づいた作文に留まり、受け身的な学習となつて、第1のレベルから脱することができていなかったのでは



第1図 自己学習力のレベル

ないだろうか。そこで本研究では、上記3点の方策に留意しながら研究を進めることにした。

2 「書くこと」に求められていること

児童の「書く力」について詳しく調査した。「平成15年度神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査結果の概要 小学校 国語」において、以下のような指導上の改善点が指摘されている。

「書くこと」については、具体的な場面(日記・招待状・手紙等)を設けて書くことに親しませ、書くことが日常での大切な伝達手段であることを伝えていく必要があります。

さらに今後の指導については、「子どもたちに書きたいという気持ちを持たせること」「書くことを厭わない環境作りを普段からしていくこと」が大事であり、「意図的に書く必要のある場面の題材を工夫して設定すること」や「子どもたちが実際に書くことが十分に役立ったという成就感や喜びを持たせること」の必要性等も述べられている。

また、「平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書 小学校 国語」を踏まえた国語科授業の改革案として、小森(2004)は「相手・目的意識をもって、取材指導、推敲・評価指導を、学期毎に繰り返して指導すること」をはじめ、「評価規準を位置づけた各学校の特色を生かした年間指導計画づくりを進めること」「書くこと」の能力や書くことの学習状況に

1 小田原市立下曾我小学校
研修分野(国語)

ついで意識点検をすること」「児童が書くことの有用感や意義をもてるような指導過程の工夫をすること」を挙げている。

3 仮説の設定

上記の各種調査結果・実態報告や国語科授業改革案をもとに、以下の仮説を立て、授業実践を通して検証することにした。

【基本仮説】

自己学習力の充実を図り、作文指導を工夫することにより、児童は「書くこと」に慣れ親しみながら、自分の思いを的確に・意欲的に表現することができるようになるだろう。

【仮説1】IT作文支援教材「おもしろ作文」

IT作文支援教材「おもしろ作文」を作成し、活用することにより、児童の自己学習力が高まり「書くこと」に慣れ親しみながら、書く力を高めることができるようになるだろう。

- ・「おもしろ作文」の中にヒントとなるページを作って個々への支援ができるようにすることにより、自己学習力に働きかけながら書く力を高めることができるだろう。
- ・字が稚拙であったり漢字が苦手であったりする児童にとっては、ワープロソフトを用いて作文を書くことにより、書く意欲が高まるだろう。

【仮説2】作文指導の工夫

作文指導を工夫し、相手意識と目的意識、相互評価と自己評価に重点をおいた授業を実践することにより、児童は自分の思いを的確に表現することができるようになるだろう。

- (1) 相手意識・目的意識に重点をおいた授業
 - ・「誰に」「何のために」書くのかを明確にすることにより、「書くこと」のめあてをもつことができるだろう。
 - ・相互評価の際、読み手の立場に立つことにより、相手意識を深めることができるだろう。
- (2) 相互評価・自己評価に重点をおいた授業
 - ・相互評価としてお互いの作品を読み合いアドバイスし合うことにより、児童は的確に書くための視点を確認したり深めたりすることができるだろう。
 - ・自己評価の具体的な場面として、推敲の時間を設定する。視点を「的確に書くこと」にしぼり、推敲することにより、書く力を高めることができるだろう。

【仮説3】「総合的な学習の時間」との関連

「総合的な学習の時間」と関連させ、児童一人ひとりの思いを大切に時間と場を保障することにより、児童は自分の思いを意欲的に表現しようとするだろう。

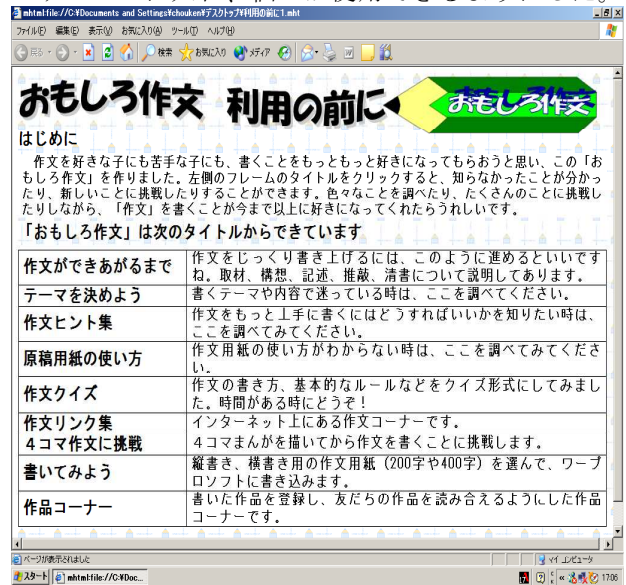
- ・「総合的な学習の時間」に児童の思いに沿った充実

した活動を行うことにより、児童は「書くこと」や「話すこと・聞くこと」などの表現活動に意欲的に取り組むだろう。

- ・「総合的な学習の時間」の発表において、「書いたこと」が役立った満足感を味わうことにより、児童は「書くこと」への学習意欲をさらに高めることができるだろう。

4 IT作文支援教材「おもしろ作文」とは

- ・ワープロソフトにてhtml形式で作成し、メインサーバーに入れ、個々が使用できるようにした。



第2図 IT作文支援教材「おもしろ作文」

5 検証授業

- (1) 単元名 効果を考えて書こう(6年光村図書)
教材名 ガイドブックを作ろう

(2) 単元の目標

- ・下曽我小学校の歴史・自然について調べた事柄を整理し、目的や意図に応じて効果的な表現となるように工夫して、創立80周年記念ガイドブックを作ることができる。

(3) 単元の指導計画(10時間扱い、○数字は時間数)

- 第1次②学習のねらいを知り、どのようなガイドブックにするかを考える。
- 第2次③取材した材料を整理し文章構成を練る。
- 第3次②構想メモをもとに個々のページを書く。
- 第4次①個々が書いたページを読んで、相互評価し推敲する。
- 第5次②清書し、学習を振り返る。

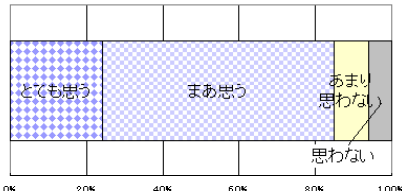
6 仮説についての考察

【仮説1】IT作文支援教材「おもしろ作文」

IT作文支援教材「おもしろ作文」について

事後アンケート「『おもしろ作文』を利用すると『書くこと』が好きになるか」という問いに対し、グラ

フ1のように 85 %の児童が「とても思う・まあ思う」と答えていた。この支援教材が児童にとって「書くこと」を好きにさせるのに有効な教材であったということができた。



グラフ1 事後アンケート結果

自己学習力と書く力を高めることについて

A児は記録や報告文の文章を書くことやメモをとる作業等を苦手としていた。しかし、「おもしろ作文」のヒント集を積極的に利用し、タイトルや文章の書き出しを意欲的に工夫するようになった。その結果が第3図A児の清書に表れている。

昔の服装をのぞいてみよう！

「みんなは、下駄を履いて登校している自分を想像できる？」
わたしは、おじいちゃん・おばあちゃんが学校に通っている頃の服装について調べました。するとびっくり！下駄を履いて登校したり、はだしで体育をしたり、着物を着て登校したりしていました。これからくわしく昔の下曾我小学校の服装を説明します。

まず、普段着をのぞいてみよう！

普段着は今と大違い！今は、男女関係なく、ズボン・スカート・シャツ・トレーナー等いろいろあります。だけど昔は、着物・学生服・もんぺ（布地で、少しよれよれのズボン）・シャツ（ブラウス）・セーターだけでした。（当時は戦争中で、服を買ってもらえば良い方だった。）でも、服装よりも靴の方がもっと貧しいのです！みんなのはいている、靴は昔、おかねもちの子だけしか買えず、普通の子は、下駄を履いていました。みんな考えられる？下駄で登校していたんだよ？そんなことを聞いていると、今の子はとっても幸せなのだ、と思いました。

第3図 A児の清書

また、他の児童においても「おもしろ作文」を活用して、自らの課題に向かって書く力を高めていった様子が見えがえた。

【仮説2】作文指導の工夫

相手意識・目的意識に重点をおいた授業について

相手意識と目的意識を明確にもたせる時間を設定し「3年生に知らせたい」（相手意識）と「下曾我小学校の歴史や自然を知らせ、これからも大切にしてもらいたい」（目的意識）の深化を図った。さらに個々の「伝えたい思い」を一覧表にして誰がどんな思いをもっているのかを確認できるようにした。その結果、自分の考えを深めたり、広げたりする様子が見受けられた。また、読み手の立場に立って文章構成や記述の仕方を考え、言葉を吟味しようとする意識もめばえて来た。

相互評価・自己評価に重点をおいた授業について

相互評価として、お互いの作品を読み合いアドバースし合う時間を設定した。A児の事例では、アド

バースカードを受けて漢字に直したり、ルビをふったりする等、下書き段階に比べ相手意識と目的意識がより強くなり、進んで修正に取り組んでいた。また、自己評価として推敲の時間を設定した。授業後に書いた感想の中には、下書きの段階に比べて推敲した文章に充実感や満足感をもった児童が多かった。

相互評価と自己評価に重点をおいた授業により、児童が自分の思いを的確に表現するための視点を広げたり深めたりすることができたと考える。

【仮説3】「総合的な学習の時間」との関連

「総合的な学習の時間」と表現意欲について

「総合的な学習の時間」に自分の思いに沿って時間をかけて取材できたことは、ガイドブック作りに意欲的に取り組む大きな要因になった。児童は相手意識や目的意識を継続させ、表現意欲を高めることができたと考えられる。

また、このガイドブックを3年生に発表したことにより、自分たちの思いを伝えられた満足感や喜んでもらえた充実感を味わうことができた。さらに、もっとたくさんの人に伝えたいという思いもふくらませていた。

研究のまとめ

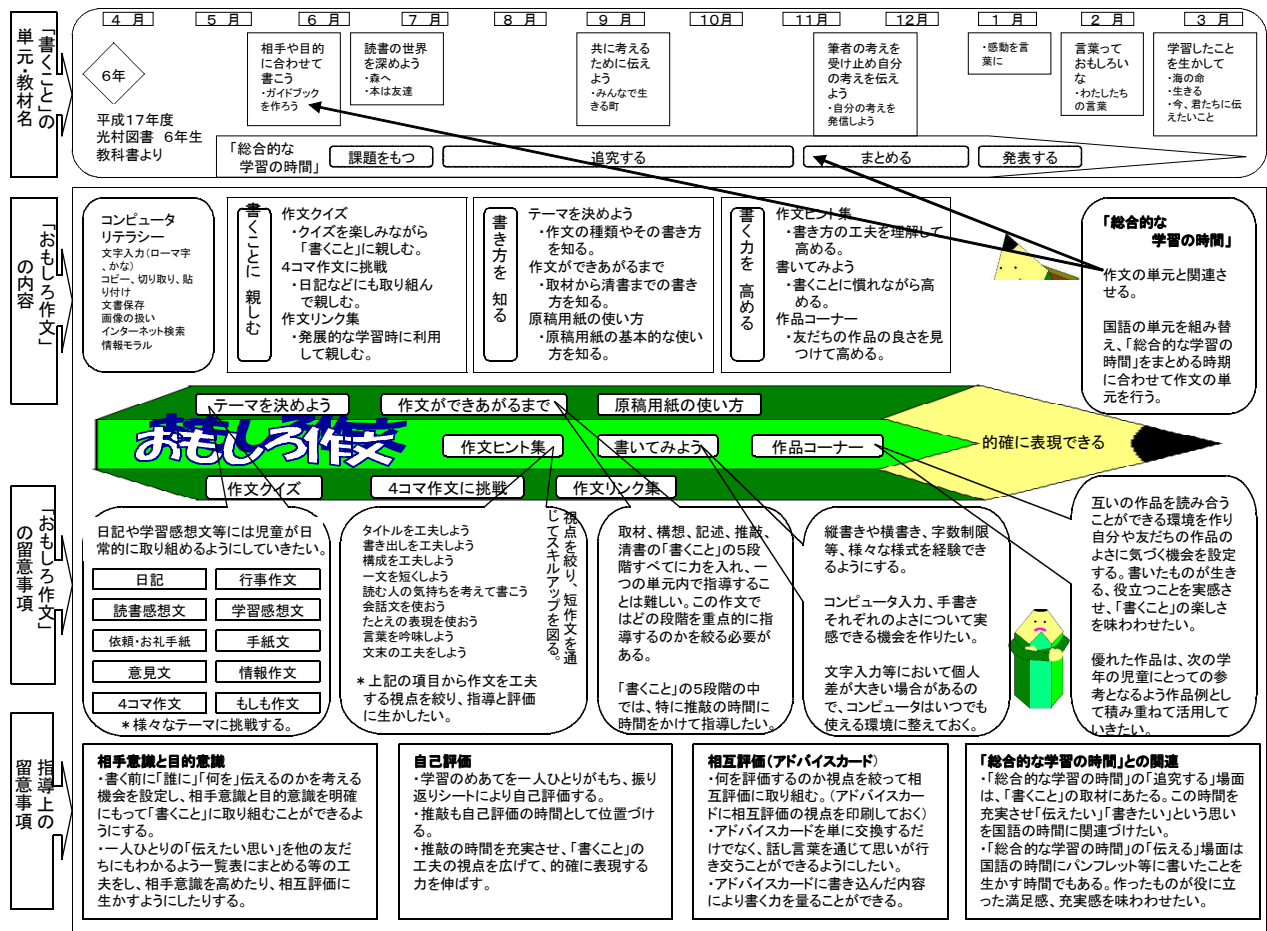
各種学習調査等の報告では「書くこと」の指導の充実が求められている。そこで本研究では、その指導法の工夫としてIT作文支援教材「おもしろ作文」を作成し、三つの仮説に基づく「書くこと」の学習指導法の工夫について検証した。

「おもしろ作文」を作成するにあたっては、児童が「書くこと」に親しみ、自分の思いを的確に表現できるような工夫を試みた。その結果、児童が「書くこと」に興味・関心を抱きながら、学習活動に積極的に取り組むことができるようになったと考える。なお、一般に普及しているワープロソフトを使って「おもしろ作文」を作成することを試み、各学校でも活用しやすい形式にした。

また、「おもしろ作文」を工夫したことに加え、相手意識と目的意識、相互評価と自己評価に重点をおいた授業計画を作成し、さらに、「総合的な学習の時間」と関連をもたせた授業を展開した。それによって、本研究のテーマ「自分の思いを的確に表現できる児童を育てる学習指導法の工夫」に迫ることができたと考える。

本研究の成果を踏まえて、国語科教科書（平成17年度6年生用 光村図書）より「書くこと」に関わる単元名や教材名を挙げ、「おもしろ作文」の活用を中心とした「書くこと」の指導計画案を第4図のように作成した。各学校での年間指導計画作成に役立つものと考えられる。

IT作文支援教材「おもしろ作文」を活用した「書くこと」の指導計画案(6年)



第4図 指導計画案

今後の課題

IT作文支援教材「おもしろ作文」活用後の調査では、児童から「もっと絵を多くしてほしい」「もっとわかりやすいヒントがいい」という感想があった。児童の思いを大切に受け止め、さらに利用しやすい「おもしろ作文」に改善する必要があると思う。また、高学年だけでなく、発達段階を踏まえて低中学年の児童にも利用できるような「おもしろ作文」の作成とその活用法についても研究していきたい。

今回は「ガイドブックを作ろう」(6年上 光村図書)で検証したが、他の単元での検証を積み重ね、研究をより確実なものにしていきたい。

おわりに

この1年間、「書くこと」の学習において児童の思いに沿った課題の設定や手立ての提示を考え、本研究を進めてきた。この研究を通し、改めて「書くこと」の学習の大切さを感じた。児童にはぜひ「書くこと」を通して自分の思いを的確に表現することができるようになって欲しいし、ひいては「伝え合う力」そのものを伸ばして欲しいと願っている。さら

に、今後も児童の書く力を培うための研究を深めていきたい。

引用文献

- 神奈川県教育庁教育部義務教育課 2004 「平成15年度神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査結果の概要(小学校)」 p. 2、p. 11
- 市川伸一 1995 『現代心理学入門「学習と教育の心理学」』 岩波書店 pp. 110-111
- 市川伸一 1998 「自ら学ぶとはどういうことか—学習の理論から見た自己学習力とその育成—」(『初等教育資料6月号』) pp. 2-3
- 小森 茂 2004 「学力調査をふまえた国語科授業の改革—『書くこと』の領域の場合(その2)—」(『国語教育9月号』) 明治図書 pp. 117-121

参考文献

- 市川伸一 1994 『コンピュータを教育に活かす』 勁草書房
- 国語教科書 平成17年度6年生用 光村図書
- 文部省 1999 『小学校学習指導要領解説国語編』 東洋館出版社